

1.出会い

<SE:サァーっと降る雨の音>

(マイク位置：通常正面)

(少し暗めに)

ナレ：気が付くと私は、雨の中にいた。

寒い…。

ナレ：周りを見ても知らない景色が広がっていて、ここまでどうやって来たのかも思い出せない。

ナレ：ただ、ここに来なきゃいけないっていう気持ちだけがあったのは覚えてる。

(ぼんやりと)

ここ、何処だろ…。

何も思い出せない。

ナレ：何よりも大切なものを思い出せないことに気付いた。

私…だれだっけ？

(マイク位置：正面少し位置下げる)

うう、寒いなあ…。

ナレ：しばらく雨に打たれていたみたいで、身体はびしょ濡れだった。

ここに来なきゃいけない気がしたのに、何も…思い出せない。

<SE：後ろから男性の足音が近づき、肩をトントンと叩かれる>

(マイク位置：正面少し遠ざかって)

きやっ！

あ…傘は、なくて…その…いえ、1人です。

はくしゅんっ！

え？コート？ああ、寒いと思ったら、この服だけだった…

(マイク位置：通常正面)

ナレ：最初は、ちょっと不愛想な男の人だなって思った。

ナレ：何で急に声を掛けてきたんだろうって、怖かった。

ナレ：それからもっと近づいてきて、私に触れた途端、私は倒れた。

(※シャワーの音)

あったかい…

ナレ：目が覚めるとあったかいシャワーを浴びていた。

(マイク位置：左遠め)

(ぼんやりと)

え？シャワー…？

きやつ！！

(慌てて)

さ、さっきの人？！

え？私が倒れて…？体が冷えてたから家に連れて帰ってあつためてた…？

(少し申し訳なさそうに)

ありがと…ござい、ます

でも、は、はずかしいです…

自分で身体、洗えます。

<SE:バスルーム締める音の後、遠ざかる足音>

(マイク位置：通常正面)

(情けない声で)

私裸だあ…恥ずかしい…。

ナレ：とにかく身体をあつめると、お風呂を出た。

ナレ：ふかふかのタオルと、すごく大きな服が置いてあったので、それを着た。

(マイク位置：右遠め)

あのぉ…ありがとうございました…

(恥ずかしそうに)

それで、わ、わた、私のパンツ…知りませんか？

え？…びしゃびしゃだったから洗った？

(情けない声で)

そつかあ…、あ、ありがとうございます…

(少し明るく)

あ、はい、服着ました。

パンツ穿いてなくてスースーするけど…。

(警戒しながら)

え？こっちに来い…って？

ごはん…、ですか？

はい、お腹は空いてます…

カップラーメンしかないけど…、も、もらっていいんですか？

<SE：裸足で床を歩く音>

(マイク位置：通常正面)

なんだか、ごめんなさい。

色々してくれてありがとうございます。

…ふー、ふー…

あ、あんまり見られると…、なんだか緊張します…

<SE：少しだけ麺する音 ※CV様出来るようでしたらお願ひします>

あちっ！

お腹空いてて、しばらく何も食べてなかったみたいです。

あわてて食べなくとも誰もとらない？

確かにそうでした…

なんか、急いで食べなきゃいけない気がして。

ふーふー…

<SE:麺する音>

ナレ：よく見かける普通のカップラーメンなのに、すごく美味しいくて、あったかかった。

(マイク位置：正面下から)

(堪えきれず泣き始める)

えぐっ…うつ、く…ごめ、なさ…美味しいのに、何だか涙が…

優しくしてもらったら、嬉しくて…

胸のこのあたりがじーんと来ちゃったんです…

(マイク位置：通常正面)

(少し泣き止んで)

え？名前…ですか？

それがその…わからないんです。

…はい、何処から来たかも、なんであそこにいたのかも、わからないんです。

(ちょっと慌てて)

あ！心配しないでください！

これ食べたら出でいきます！

(ちょっとバツが悪そうに)

あ…やっぱり、パンツ乾くまで…あ、その、お洋服も乾くまで居ていいですか？

え？記憶が戻るまで居ていいって？

(とんでもない！というように)

そんなっ！いつ戻るかわからないし、知らない女の子いたら迷惑じゃないですか！

迷惑じゃ…ない？

(少し考えながら話す)

じゃ…あ、私何となくお掃除だけは得意な気がするんです。

だから、メイドさんとして、お家に住まわせてもらってもいいですか？

(おどおど)

…やっぱり迷惑ですよね？

え？助かる？

仕事の間に掃除しひとけ？

(嬉しそうに)

はい！もちろんです！

あのぉ、なんて呼べばいいですか？

何でもって…そ、それじゃあその、私はメイドさんなので、ご主人様…じゃ嫌ですか？

(照れながら)

…はい、ご主人様。

(マイク位置：正面近め)

これからそう呼びますね？